

東京バッハ合唱団 月報

[第753号] 2025年3月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp



BACH-CHOR TOKYO

Monthly Newsletter No.753

March 2025

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

近づく、テューリンゲン・バッハ週間

2025年4月11日～5月4日

ワイマール在住の音楽学者で団友の園田順子さんから2025年の「テューリンゲン・バッハ週間」の第1報をお送りいただきました(右掲のイメージ画像2点)。音楽祭プログラムの編集作業にも加わっていらっしゃる由、ご活躍をお祈りします。

新着の広報映像(英語版、序言のみ日本語=下記)は、ここからご覧いただけますので、閲覧可能な方はぜひお開きください。

<https://www.thuringer-bachwochen.de/ja/>

この映像には、以下のような日本語が添えてありましたので、ご紹介します。

バッハの国テューリンゲン

「テューリンゲン・バッハ週間」音楽祭の原点は、ヨハン・セバスティアン・バッハの作品をバッハの故郷テューリンゲンで鳴り響かせることにあります。

アイゼナハのバッハ博物館[バッハの生家が再現されている:編集部]や洗礼教会[バッハが幼児洗礼を受けたゲオルク教会]、子供の頃に過ごしたオールドルフ、バッハが結婚式を挙げたドルンハイムの聖バルトロメオ教会、オルガニストとして働いたミュールハウゼンやアルンシュタット、バッハの数々の名作が生み出されたヴァイマル、エアフルトやヴェヒマールのバッハ一族の家など、ドイツで最も多くのバッハの歴史の見どころが、このテューリンゲンに集中しています。

これら世界にたった一つだけのロケーションがその歴史的重みと相まって、欧州最前線のアーティストらによる感動のパフォーマンスを毎年生み出しています。あなたもぜひ私達と一緒に、テューリンゲンでバッハの軌跡をたどってみませんか?

ドイツのバッハ音楽祭といえば、日本のわれわれは、バッハが後半生を送った東部の大都市ライプツィヒのそれを先ずは思い浮かべますが、こちらの音楽祭にも目を向けたいものです。

上記の序文にも言及のあるアイゼナハ・ゲオルク教会では、東京バッハ合唱団は、過去に2回の公演を行っています。初めは1988年8月の第2回ドイツ巡演の際に、カンタータ BWV 6の全曲を日本語演奏でお届け



■ 下図の上段(赤の文字): 『テューリンゲン・バッハ週間』は、J.S. バッハの故郷、中部ドイツで開かれる音楽祭です。/ 毎年イースターの前後に、3週間以上にわたって、50公演以上のコンサートが開催されます。/ バッハ一族は代々このテューリンゲン州に住み、音楽の歴史を刻みました。/ J.S. バッハも生涯の半分近くをこの地で過ごしました。

■ 中段(緑の文字): 様々な旅行パッケージを日本語で用意しています。/ 皆様のお越しをお待ちしております。

■ 下段(赤と緑): 詳細はこちら: THÜNINGER BACHWOCHEN
www.thuringer-bachwochen.de/ja

(園田順子)

したほか、原語でも数曲の抜粋曲を演奏しました。2度目は1997年8月(第4回ドイツ巡演)にて、午前の日曜礼拝ではカンタータ BWV 150をドイツ語演奏で、午後のコンサートではカンタータ BWV 21を日本語演奏でお届けしました(いずれもOrg伴奏:草間美也子)。

上掲図の遠景、山頂にヴァルトブルクの城塞が見えますが、バスツアーで訪ねた思い出のある懐かしい風景です。バッハの父親が楽師として、この城の宮廷に毎日勤めていました。その2世紀ほど前には、宗教改革のルターが潜んで、聖書のドイツ語訳を果たした場所としても有名です(編集部)。

月報 2025年3月号 CONTENTS

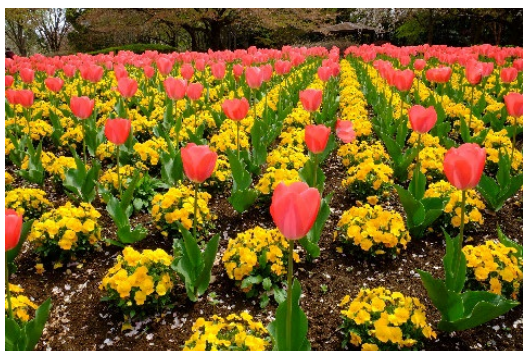
- ・3月は、私の誕生日(大村恵美子)…… p.3
- ・日本語版楽譜全集、完結計画の今後(出版局)… p.3-4
- ・連載: 退屈するのはいそがしい[49](大野博人) p.4

3月は、私の誕生日

大村 恵美子（主宰者）

成人して以来、私は、2月から3月へと移るころには、心身ともにワクワクと動いてくるのを感じます。人間だれしもの推移なのでしょう。暖房が心地よいせいか、外歩きをしないでいると、身体に及ぶ影響が何によるものか分からないのですが、やはり自然一般の現象として、冬から春へとなだれ込んで行くのではないかと感じられ、期待されるのです。

まさにそういう時（3月9日）に、私は誕生しました。そして、自分を振りかえてみると、何についても、「早くそうなってくれるといいなあ」と待ちわびるのです。



■撮影…千葉光雄（団員）

私自身についてあれこれ評価するのはおかしなものですが、敢えて言うと、すべてを悪い方に考えず、「ありがたく生きてゆける」「おそらく恵まれた道が開かれる」と、希望的将来を思い描くという、早く云うと「お目出たい」性格で生きています。

正直のところ、どんな相手に対しても、「あんなイヤな人、うまくゆく訳がない」と意地悪な解釈をするよりも、人間どうし、普通に生きれば、相手も自分と同じように快適に生きるのが当然、と割り切って解釈するのです。

人間はだれしも同様、お互いに仲良く楽しく過ごすのが自然状態——何の抵抗もありません。人間同士は、もともと仲間なのだから、いじめたり喧嘩したりしないで、お互いに尊重し合って、安らかに暮らしましょうよ、と云うだけのことなのです。私は、自分ではもちろん、そのように心がけて生きているつもりです。

社会から疎外する、仲たがひ、意見を異にする、悪口を言いふらす——面と向かってでも、そのようなことを自分に厳しく禁じて、どんな相手でも、その人の良さに目を向け、避けたり、けなしたりなど一切なしに、目をつぶってでも、善人同士として付き合ってください。相手の欠点をあげつらうよりも、あるいは交わるのを避けるよりも、仲間のように自然に接してゆきましょう。どう見ても人間らしい処が見つからないなんて云う珍しい人は、私の生きてきた範囲では、いませんでした。

交わりを妨げるのは、人間らしくないことだと、誰にでも訴えたいのが、私の本音なのです。（2月27日）

◆月報バックナンバーは、当団HPからご覧いただけます。
http://bachchor-tokyo.jp/monthly_newsletter/index.htm

<東京バツハ合唱団 次回公演予告>

第123回定期演奏会

— 日本語演奏・大村恵美子訳詞 —

■カンタータ第23番《主なる神 ダビデの子》

■カンタータ第34番《おお永遠の火よ おお愛の源よ》

■《マニフィカト わが心 主をあがむ》ニ長調

・5月31日（土）日本キリスト教団 荻窪教会（60席）

（JR中央線/地下鉄「荻窪駅」南口8分、杉並区荻窪4-2-10）

・6月7日（土）日本キリスト教団 三崎町教会（250席）

（JR総武線「水道橋駅」東口3分、千代田区神田三崎町1-3-9）

<2回公演> 両日とも同内容、14時開演（開場30分前）

[演奏]

ソプラノ1：藤原優花、ソプラノ2：前田ひより

アルト：中島麻紀子、テノール：野中裕太、バス：及川泰生
（「バツハと仲間の音楽会」(2024年6月)で好演の若手4人+1人）

管弦楽：コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン（ARS）

オルガン：田尻明葉、合唱：東京バツハ合唱団

指揮：大村恵美子

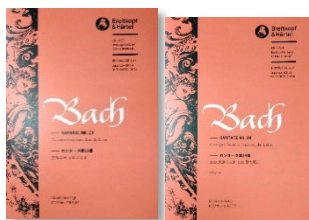
●入場無料（お申し込み不要、直接ご来場ください）

●後援会/団友のみなさまには、予めご一報いただければ、お席を確保いたします。

主催（問い合わせ）：東京バツハ合唱団

電話 03-3290-5731、メール office@bachcho-tokyo.jp

「日本語版バツハ・カンタータ楽譜全集」(既刊84曲)



■出版譜最新刊：BWV 23, BWV 34

完結計画の今後

大村 健二（出版局）

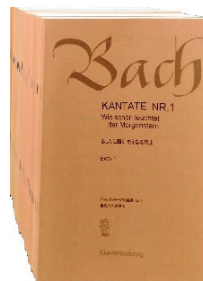
昨年春、次回公演（上掲概要と次ページのチラシ参照）の演目であるカンタータ第23番《主なる神 ダビデの子》(BWV 23)

と第34番《おお永遠の火よ おお愛の源よ》(BWV 34)の2曲の楽譜を制作・出版したのが最新の成果です（2024年5月20日発行）。

これを手にして音取り練習から初めたのがちょうど1年前、いま《マニフィカト》も加えた演目すべてにようやく目鼻がついてきたところです。残り3ヶ月、仕上げの段階を迎えます。しっかりと円熟させてお届けできる日を楽しみにしています。ご期待ください。

昨年の今ごろの当月報紙面では、底本提供のブライトコプフ&ヘルテル社が、当出版局の自費出版譜にも、ドイツと同じ体裁の表紙デザインの使用を勧めてきたこと（上掲図版の出版譜 BWV 23 と 34）や、その勢いに乗って一気に全巻完結をめざす、財源にはクラウドファンディングを充てながら……、と華々しく報じたことを思い出しますが、なかなか想定通りには進まず、計画全体のテンポを落とさざるを得ない現状です。

海外をふくむ諸方面からも、バツハ日本語演奏へのご賛同が、強く寄せられているなか、その熱を冷ます



●『50曲選』全曲 (2004年完結)

曲選』だったわけです。ご存じの作品が たっぷりと選ばれているはず。

その堂々たる陣容をとくと読み取っていただければ幸いです。タイトル(歌い出し初句)からだけでも、上述の「混沌」を打ち払う空気が漂って来ませんか？

『バッハ・カンタータ 50曲選』(大村恵美子訳詞)

- BWV 1「あしたに輝く たえなる星よ」Wie schön leuchtet der Morgenstern
- BWV 4「キリスト 死につながれし」Christ lag in Todesbanden
- BWV 6「とどまれ我らと 夕闇せまり」Bleib bei uns, denn es will Abend werden
- BWV 8「み神よ わが死はいつ」Liebster Gott, wann werd ich sterben
- BWV 16「主 ほめ歌わん」Herr Gott, dich loben wir
- BWV 19「戦い かくて起これり」Es erhuh sich ein Streit
- BWV 21「われは 憂いに沈みぬ」Ich hatte viel Bekümmernis
- BWV 26「はかなく むなしき 地なるいのち」Ach wie flüchtig, ach wie nichtig
- BWV 29「み神に 謝しまつらん」Wir danken dir, Gott, wir danken dir
- BWV 30「よろこべ 救われし民」Freue dich, erlöste Schar
- BWV 36「喜びのぼれ いと高き星に」Schwingt freudig euch empor
- BWV 39「あたえよパンを 飢えたる者に」Brich dem Hungrigen dein Brot
- BWV 40「地に来ませり 神のみ子」Dazu ist erschienen der Sohn Gottes
- BWV 41「イエスをほめよ 新たな年に」Jesu, nun sei gepreiset
- BWV 42「同じ安息日の夕べ」Am Abend aber des Sabbats
- BWV 45「主は告げぬ よき行いの何なるかを」Es ist dir gesagt, Mensch, was gut ist
- BWV 47「おのれを高むる者は 低くせられ」Wer sich selbst erhöht, der soll erniedriget werden
- BWV 56「十字架を 勇みて負わん」Ich will den Kreuzstab gerne tragen
- BWV 61「いざ来たりませ 世の救い主 (I)」Nun komm, der Heiden Heiland (I)
- BWV 63「彫りきざめ この日」Christen, ätzt diesen Tag
- BWV 68「み神はこの世を かく愛したまえり」Also hat Gott die Welt geliebt
- BWV 71「主は わが君」Gott ist mein König
- BWV 72「みなすべて み心のままに」Alles nur nach Gottes Willen
- BWV 76「主の栄光を 天は語り」Die Himmel erzählen die Ehre Gottes
- BWV 77「主を愛すべし 心のかぎり」Du sollt Gott, deinen Herren, lieben
- BWV 78「イエス わが心を」Jesu, der du meine Seele
- BWV 80「かたき岩ぞ わが主は」Ein feste Burg ist unser Gott
- BWV 84「われ足れり わが幸に」Ich bin vernüthigt mit meinem Glücke
- BWV 93「ただ 主に よりたのみ」Wer nur den lieben Gott läßt walten
- BWV 99「神のみわざこそ ことごと善けれ」Was Gott tut, das ist wohlgetan
- BWV 104「牧人 主よ きけよ」Du Hirte Israel, höre
- BWV 106「神の時は いとも正し」Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit
- BWV 110「よろこび 笑い あふれ」Unser Mund sei voll Lachens
- BWV 116「平和の君 イエス」Du Friedefürst, Herr Jesu Christ
- BWV 123「いとしインマヌエル わが魂の救い主よ」Liebster Immanuel, Herzog der Frommen
- BWV 124「イエス ともにあらん」Meinen Jesum laß ich nicht
- BWV 129「ほめ讃えよ 主を」Gelobet sei der Herr, mein Gott
- BWV 131「深みより 主よ われはなれを呼ぶ」Aus der Tiefen rufe ich, Herr, zu dir
- BWV 137「頌めよ主を 強き栄えの君を」Lobe den Herren, den mächtigen König der Ehren
- BWV 140「目覚めよと 呼ばれる 物見の高声し」Wachet auf, ruft uns die Stimme
- BWV 147「心と日々のわざもて」Herz und Mund und Tat und Leben
- BWV 150「なれを 主よ われは仰ぐ」Nach dir, Herr, verlanget mich
- BWV 156「墓に 片足入れ」Ich steh mit einem Fuß im Grabe
- BWV 180「装え 心よ 罪の闇を去り」Schmücke dich, o liebe Seele
- BWV 187「待ち望み みな なれを」Es wartet alles auf dich
- BWV 190「主にむかいて歌え 新たなる歌を」Singet dem Herrn ein neues Lied!
- BWV 192「ああ 感謝せん 神に」Nun danket alle Gott
- BWV 194「大いなるこの日 新たな宮を」Höchsterwünschtes Freudenfest
- BWV 196「主は おぼえたもう われらを」Der Herr denket an uns
- BWV 197「主 かたき望み」Gott ist unsre Zuversicht

前ページで述べたとおり、日本語版楽譜の全曲発行計画は目下、ペースの見直しの段階ですが、当初計画の第1年次発行分10曲に関しては、すでに完全版下が準備されており、発刊を待つのみです。

※ 上掲『50曲選』は、2004年の完結に際し、記念の全曲セットを組みましたが、多少の残りがあります。当時の記念特価を、さらに割り引きますので、お求めください。

- ・単品 50曲合計 79900円のところ、今回 40000円(半額)で提供
- ・各曲単品でのご注文も、お受けします(1200円~2100円)

いずれも貴重な財源になります。ご協力いただければ幸いです。

東京バハハ合唱団 第123回定期演奏会
— J.S.バッハの偉大な遺産 大村恵美子訳詞 —

カンタータ第34番『おお永遠の火よ おお愛の派よ』
O ewigen Feuer, o Ursprung der Liebe BWV 34

カンタータ第23番『主なる神 ダビデの子』
Du wahrer Gott und Davids Sohn BWV 23

『マニフィカト、わが心 主をあがむ』(マリアの讃歌)
Magnificat BWV 243

2025年 5/31[土] 荻窪教会
6/7[日] 三崎町教会

＜公演＞
●両日とも14:00開演(開演 30分前)
●入場無料(申し込み不要、会場でご来場ください)

東京バハハ合唱団 第123回定期演奏会
曲目 J.S.バッハの偉大な遺産 大村恵美子訳詞

●ソプラノ 藤原 綾花 (ソプラノ) 前田ひより (ソプラノ) 野中 裕人 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ)

●アルト 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ)

●テノール 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ)

●バス 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ) 尾川 美生 (ソプラノ)

■次回公演(第123回定期演奏会) チラシ(上掲、左・表面と右・裏面)が出来上がっています。ご入用の節は事務局までご一報ください(枚数も)。お送りいたします。

ことのないよう、今後の計画については、無理のない範囲で見直しつつ、改めてご案内をさせていただきます。お励ましいただけますようお願いいたします。

◆古代の知恵、輝きの18世紀

唐突ですが、そもそもバッハ・カンタータの魅力とは何か。

トの字のこと、プの字のこと……、この混沌の現代につくづく思うのは、カンタータの世界が、音楽もテクストも、知的で明解で爽やかで、敬意と思いやりと誠実と平安に満ち、謙虚で、創意と刺激にあふれ……。まさに「混沌」の対極の語彙をならべれば、すべてが当てはまってしまふように思われることです。

ある解説によると、どうも知的で明解で爽やか……。と並べたてる在りようそのものが反感を呼び、分断の要因になっているとのことなので、やり切れません。

こんなときに思い浮かべるのは、古代に生きた「イエスという男」のことです。新約聖書の内容を、わたしは古代の知恵の結晶、と捉えています。彼は世の権威をおとしめ、法を超え、常識をくつがえし、薄っぺらな安寧に剣を投げ込みました。すべて、新しい生き方に目覚めるため――。

そして1700年の後に、バッハが、彼の音楽的創意と技量の全てをもって、この尖鋭な思想をカンタータ作品に盛り込んだんです。啓蒙の18世紀にあつて、明晰な芸術家が、古代から中世、ルネサンスにいたる西洋音楽史を総合したさまは、イエスの総合に通うようにも思われます。カンタータという作品群こそは、二人の突出した人物の、1700年を隔てての協業であった、との意味付けは如何でしょう？ 愉快です。

◆改めて『バッハ・カンタータ 50曲選』の豊かさ

話題が抽象的になりました。ここに具体そのものを並べてみますので、眺めてみてください。

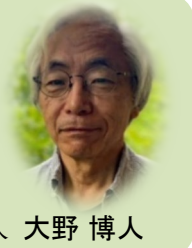
われわれのバッハ日本語演奏を、普及させる手立てとして、西暦2000年から日本語版楽譜の自費出版を開始しましたが、その先駆けが『バッハ・カンタータ 50

<連載随想>

退屈するのはいそがしい [49]

英雄とジュピター

安曇野閑人 大野 博人



音楽作品は、どれほど時代の空気を吸って生まれてくるのだろう。

地元の二つのアマチュア・オーケストラでチェロを弾きながら、そんなことに思いをめぐらせた。取り組んだのはベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」とモーツァルトの交響曲第41番「ジュピター」。

ナポレオンという人物がベートーヴェンの作曲に深く影響したことはよく知られている。1789年にフランス革命が切り拓いた共和政への道を守るために立ち上がったはずの英雄は、権力を手にすると皇帝に豹変した。19世紀初頭、欧州全体を巻き込んだ歴史の激動。それが曲想のどこにどんな風に反映されているのか、分析するのは筆者の能力の及ぶところではない。ただ、むずかしい譜面と格闘していると、質量ともに桁外れの曲の向こうに、当時のウィーン社会も巻き込まれた時代のうねりへの市民の高揚感や貴族たちの底知れない不安、そして政治的現実への怒りなどが垣間見えるような気がした。

ジュピターについては時代と直結するような作曲背景は知られていない。ただ、なじみ深いモーツァルトの曲想とはずいぶんちがう印象が強い。自然に流れる音楽ではなく、意志で前に進む音楽、とでも言えばいいだろうか。

こちらの作曲年は1788年。フランス革命の前年だ。新しい時代に突入する直前なのになにかが終わり、なにかが始まろうとする欧州の空気。モーツァルトもその空気を吸っていたことになる。

40年近く前、イタリア・ピサの教会でモーツァルトの室内楽の演奏会に出かけた。出演するピエロ・ファルッリさんというヴィオラ奏者に誘われた。取材で知り合ったのだけれど、彼は、世界的に活躍したイタリア弦楽四重奏団のメンバーだった人だ。

前半の弦楽四重奏曲第14番は、とても優美でうっとりするような演奏だった。けれど後半のクラリネット五重奏曲の演奏はロマンティックで、切々と胸に迫ってくるようだった。

そんな感想を話すと、ファルッリさんは「前半と後半で演奏のスタイルを変えたんだ」と言う。

「どうしてですか？」

「二つの曲の間に、なにか起きたかわかりますか。フランス革命が起きたんです。時代が変わったんです」

革命の始まりとなったパリ・バスチユ牢獄の襲撃は1789年の7月14日。クラリネット五重奏曲はその年の秋に作曲された。

フランス革命に触発されて書いた曲ではないだろう。

けれども、作曲されたころの欧州にはすでに新聞も出回っていた。それを読みながら、カフェに集ったウィーン市民たちはフランスで起きた「大事件」について議論を交わしたのではないか。貴族たちの屋敷に出入りしていたモーツァルトは、特権階級の動揺も目の当たりにしただろう。

ファルッリさんたちは、そんな時代を映した曲として演奏したのだ。たんに音楽史という文脈での位置づけにとどまらない解釈。

だとするとジュピターを聴いたり弾いたりして気持ちが高ぶるのも、ひたひたと迫り来る時代の変化がそこに表現されているからかもしれない。

さて最近、急速に進化しつつある人工知能は、作曲にも進出しつつあるようだ。AI（人工知能）の創った音楽がいくつもネットで紹介されている。その中にドヴォルザークの遺作を補完したという作品もあった。聴いてみると、それらしい感じはする。説明によると、作曲家の過去の作品をすべて学習させたうえで創作させたそうだ。でも、心に響かない。

同じように、モーツァルトの交響曲第40番までのすべての作品をAIに学ばせても、第41番を生みだせるわけではあるまい。

AIは1788年の欧州社会の空気を知らないのだから。芸術的創造は時代と社会を実際に生きている者にしかできない。

(団友・後援会員、元朝日新聞記者)



■本番を待つベートーヴェンの楽譜と筆者の楽器。つたないながらも演奏してみると、曲のすごさが実感できた。(写真提供と説明：筆者)